

第3回住民会議意見概要（教育部会）

日時：平成 28 年 7 月 12 日（火）19：25～21：15

場所：5 階 執行部控室

■基本計画案に関する意見

- ・住民会議で議論している内容のゴールはどこにあるのか。
- ・住民会議はもっと多くの人から意見が聞けると良い。ただ「会議」というと一般の住民にとってハードルが高い。もっと気軽な「ゆんたく会」のような雰囲気にして人を集めれば、いくらでも意見がでると思う。⇒3ページ
- ・幸福を感じる人の割合が世界の中で日本は低い。南風原町の住民の幸福度をどのように上げていくのが重要。幸福度を高めていくために教育はどうあるべきかなど、テーマを決めて議論を深めながら実践に移っていくことは難しいか。
- ・住民会議の各部会、社会福祉協議会が一緒になってモデル的に地域のつながりづくりにつながるイベント等を実施して、成功すれば他の地域に広げていくような取り組み。⇒7ページ
- ・小学生、中学生に対して幸福度の調査をして、指標として活用してはどうか。
- ・南風原町の公園は週末には、利用者が多くなり周辺道路への違法駐車が多い。

まちづくり目標 2 きらきと輝く人が育つまち

- ・貧困世帯を含めた全てのこどもたちの居場所が必要。それをどうやって作っていくか。学童クラブでは今それを進めていこうとしている。
- ・学童クラブでは異年齢での遊び、その中で年齢の上の子が下の子へのケアをするという経験が人間性と自立に向かう方向性をつくりあげる。ネットワークを含め異年齢が集まれる場をどう作っていくか。
- ・南風原町で住民の力を借りて、自由に遊ぶことができるプレーパークが作れないか。プレーパークには貧困の子どもや非行の子どもが集まってくる。そこをこどもたちの屋外の居場所にしていけないか。高津嘉山公園をプレーパークにできないか。
- ・こどもが遊ぶ環境が少ない。
- ・自治会の加入が伸びないのは、小さい頃から地域と交流する機会がないことが関係していると思う。兼城はこども会がない。こども会があれば、成長して青年会、自治会へのつながりができてくる。小さい頃から地域とつながり行動する環境が必要。

- ・住民会議は、5～10年という期間における様々なテーマを取り上げ、議論している。住民会議の役割は、これまで議論してきた内容を住民会議に参加しているメンバーと行政が連携し、実践していくことにもあると思う。⇒7ページ
- ・地域力が落ちている。子どもも大人もひとりぼっちが増え続けている。地域力、つながりをつくるため、楽しみながら集まれる場所が必要。⇒30ページ
- ・貧困世帯のこどもが学ぶことができる環境、夜の居場所があったらよい。
- ・中学生や高校生が集まることができる健全な居場所が必要。

1.安らぎと豊かな人間関係、生きる力を育む、家庭教育

(2) 家庭教育を考える機会の充実

- ・学校公開日での講演会、PTAで講演会等を行っても集まるメンバーは決まっている。日にちをどう設定するか。保護者の意識をどう変えていくのが課題。

2.地域に学び、地域を愛する人を育む、ふるさと教育

(2) 国際交流の推進

- ・大使館と連携した国勢交流は、現在行っているハワイやカナダとの交流と違うのか。

(4) 文化・伝統・芸能等の保全・継承、活用

- ・学童クラブとして、平和学習、文化センターと連携していきたい。

3.個性を伸ばし、豊かな心と健やかな体を地域と育む、学校教育

(1) 豊かな心と健やかな体を育む学習内容の充実

- ・インクルーシブ教育は、ノーマライゼーションとして障がい児を分け隔てなくということだと思うが、学童など放課後の障がい児の受け入れを考えていく必要がある。現在は障がい児は放課後デイサービスを利用している。
- ・デイサービスができたことは前進ではある。ただ保護者がほかの子どもたちと同じ環境を望んでも学童で受け入れる場合の行政の支援(障がい児を受け入れた際の補助)は十分とはいえない。
- ・特別支援学校には、いろいろな地域の子どもが通っている。放課後は各地域の学童等で受け入れられないかという内容の要請を県へ行ったが実現しなかった。
- ・住民会議では、話し合った内容をもとに、状況をどう変えていけるのかが問われている部分もあると思う。
- ・こども達の毎日の宿題は多い。学童クラブでは、こどもが宿題をやることも期待してしまう。

- ・勉強をひとりで頑張ることで、こどもが孤独になってしまうこともある。
- ・学習支援員、ボランティアはどのような体制になっているのか。先生一人では、とてもこども全体をみるのは難しいのではないか。

(3) 地域と育む特色ある学校づくり

- ・南風原小学校で学童町連協と一緒に親子での昔遊び教室を実施した。80組ほど参加があった。親もこどもも夢中になっていた。
- ・文化教養委員は、行政からの予算があり年5回講座を開かないといけない。年間の実施回数と参加目標人数が設けられていることと、予算を使い切らないといけないことが実施する側の悩み。回数をこなすだけで大変。通常は参加が10名前後のことも多い。
- ・南星中学校では創立30周年に向けて学校を中心に地域が交流できるイベントを検討している。